

# 自動車の保守管理



## 1 自動車各部の保守と手入れ

自動車の走行に当たって日常点検はもちろんですが、外観を含めて手入れを行う必要があります。

### 1 四輪車の点検

#### 1 バッテリー（蓄電池）

バッテリーは、自動車の電気装置の電源です。次のような点に注意しないと、電気容量が低下し、エンジンがかからなくなってしまうです。

- ① 電解液は、極板が露出しないように規定量を保持することが必要です。
- ② 電解液が減っていたら蒸留水（補充液）を補充します。井戸水や水道の水を使用してはいけません。
- ③ ターミナル（端子）の締付けは、確実にし、ターミナルや配線の接続部が白く汚れた場合は、温水で掃除しグリースなどをぬっておきましょう。
- ④ 寒冷期には、バッテリーの容量低下（バッテリーがあがる）を起こしやすいので、完全充電状態を保ち、かつ、始動操作に注意しましょう。



#### 「バッテリーについての注意点」

- ① 電解液は、稀硫酸ですから身体や衣服などにつけないように注意しましょう。
- ② 稀硫酸が入っているバッテリー補充液は、身体や衣服などにつけないように注意しましょう。
- ③ バッテリーを充電している場所では、特に火気に注意しましょう。

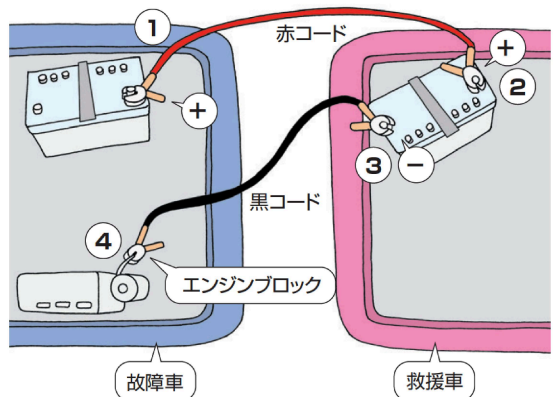
### Research より深く...

#### 「バッテリーがあがってしまった場合」

故障車のバッテリーと他の車（救援車）のバッテリーをブースターケーブルでつなぎ、エンジンを始動させる方法があります。

- ① 故障車のプラス電極（赤）と救援車のプラス電極（赤）を赤コードで接続する。
- ② 救援車のマイナス電極（黒）と故障車のエンジンブロックを黒コードで接続する。
- ③ 救援車のエンジンを先に始動させ、次に故障車のエンジンを始動させる。

この場合、接続方法や手順を間違えると、故障車だけでなく、救援車にも迷惑をかけることになるので注意しましょう。



※①②③④の順番にケーブルをつなぐ。

## 2 ワイパー及びウインドウ・ウォッシュ液

ワイパーは、降雨又は降雪時に、前方又は後方ウインドウをきれいにして、視野を確保するものです。

次の点に注意して点検し、不良の場合は修理しましょう。

- ① ワイパー・ブレードがウインドウに平均にむらなく当たっているか確かめます。
- ② ウインドウ・ウォッシュ液の量は十分か、適当な位置に噴射されるか確かめます。

走行中、ウインドウに飛んだ汚水又は泥によって視界が悪くなるので、ウインドウ・ウォッシュ液をウインドウに吹きつけ、ワイパーで取り除きましょう。

## 3 ライト等

日常点検で点灯することが確認されても、ライトの照射方向を正しく調整しておかなければなりません。

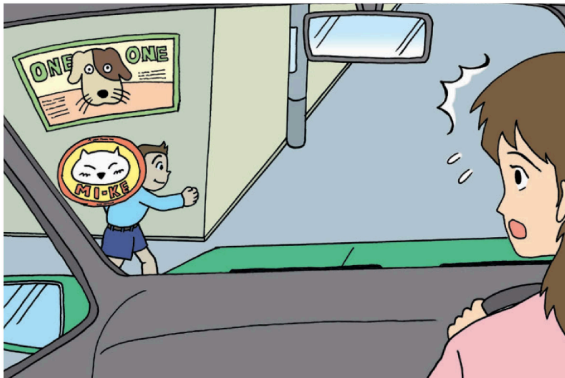
また、ライトなどのレンズは、きれいに手入れしておかなければなりません。

## 4 ウインドウガラス

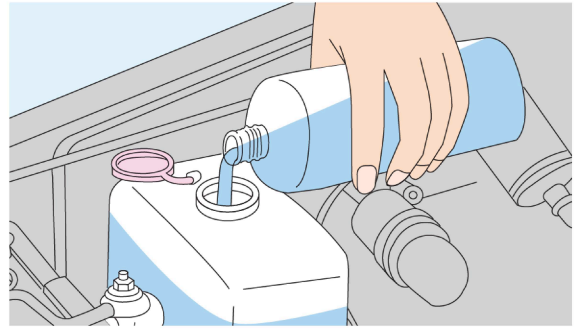
ウインドウガラスは、常に良好な視界が得られるようにしておかなければなりません。

前面ガラスなどにマスコット類を下げたり、必要のないシールをはったり、後部の窓にカーテンを取り付けたりしてはいけません。

◆「よく見えなかった」ではすまされません。



◆ウォッシュ液を補充しましょう。



## Research

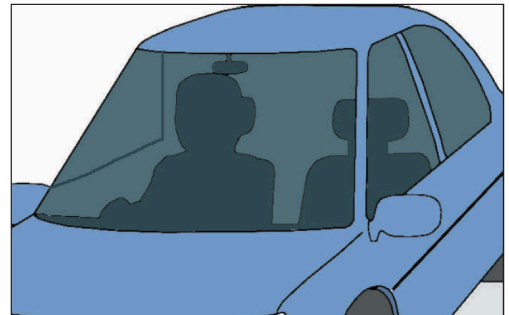
より深く…

ウインドウガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけることがあります。ウォッシュ液などでウインドウガラスをぬらしてから、ワイパーを作動させましょう。

注!

### 「遮光シールの禁止」

ウインドウガラスに遮光シール（フィルム）をはることは禁止されています。遮光シールをはると明るさが遮断され、適切な判断を妨げます。また、そのドライバーがどこを見ているのか、他の人には見えません。他の交通にとって、ドライバーの表情も大切な情報のひとつです。



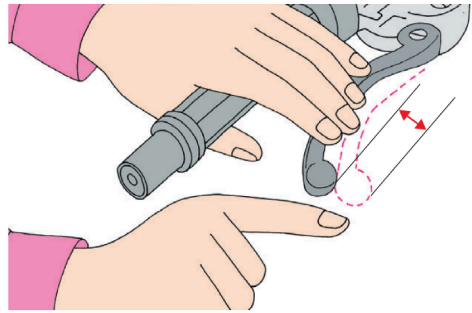


## 2 二輪車の点検

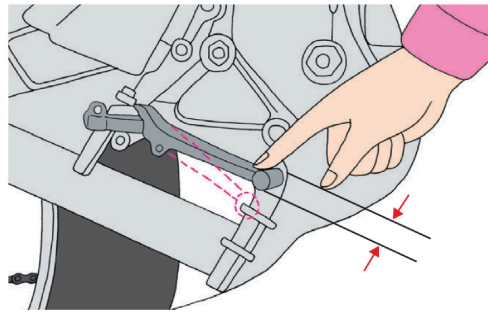
点検に当たっては、次の事柄を確かめましょう。

- ① ブレーキの遊びや効きは十分か。
- ② 車輪にガタやゆがみはないか。
- ③ タイヤの空気圧は適正か。
- ④ チェーンが緩み過ぎていたり、張り過ぎていたりしないか（緩みは、チェーンの中央部を指で押してみても調べる。）。適当な注油がなされているか。
- ⑤ ハンドルが重くないか。ワイヤーが引っ掛かっているか。ガタはないか。
- ⑥ 灯火は、すべて正常に働くか。
- ⑦ バックミラーは、よく調整されているか。
- ⑧ マフラーは、完全に取り付けられているか。破損していないか。

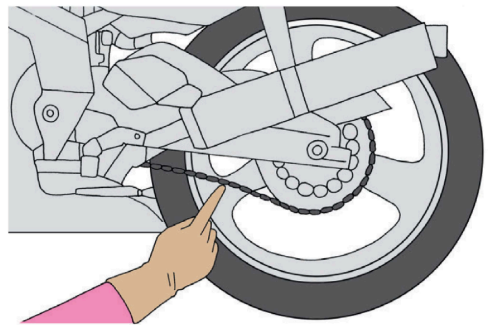
### ◆ブレーキ・レバーの「遊び」



### ◆ブレーキ・ペダルの「遊び」



### ◆チェーンのゆるみ



## 2 携行品、工具等の点検及び使用法(保安基準43の2・47)

### 1 携行品

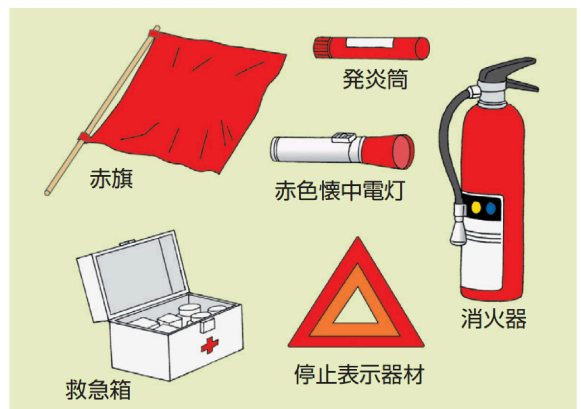
自動車には、非常用信号用具として発炎筒、赤色懐中電灯などを備えていなければなりません。

また、これらのほか赤旗、救急箱など非常の場合に必要な用具や、故障で長時間駐車する場合の危険防止の用具として停止表示器材を備えつけましょう。

冬期には降雪に備え、タイヤチェーン、スコップ、砂袋などの備えつけも必要です。

なお、義務付けられている車には、消火器を備えつけておくことも必要です。

◆備えつけてあるかどうか確認しましょう。



### Research より深く...

非常用信号用具は、二輪自動車、側車付二輪自動車、大型特殊自動車、小型特殊自動車、被けん引自動車については除かれています。万に備えて準備しましょう。

消火器は、火薬類、危険物、可燃物等を運送する自動車、乗車定員11人以上の自動車等には、備えつけなければいけません。

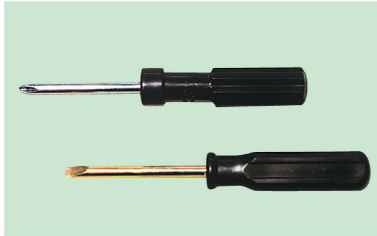
## 2 携帯工具の点検と使用法

自動車には、附属品としてスペア・タイヤをはじめ、ジャッキや軽微な故障を修理するための工具を備えつけておかなければなりません。

必要なときにいつでも使えるように点検し、その使用方法を覚えておきましょう。

主な工具類とその使用目的は、次のとおりです。

### ① ドライバー



ねじを締めたり、ゆるめたりするために使用します。+型と-型があります。

### ② プラグ・レンチ



点火プラグの脱着に使用します。

### ③ スパナ



ボルトやナットを締めたり、ゆるめたりするために使用します。ボルトやナットのサイズにより、適宜使い分けます。

### ④ モンキー・スパナ



ボルトやナットを締めたり、ゆるめたりするために使用します。口径をねじで加減できるので、数多くのスパナの役目をします。

### ⑤ プライヤ



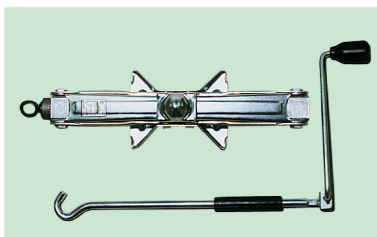
スパナを使用するまでに至らないものを締めたり、ゆるめたり、又はつまんだりするために使用します。口の大きさが二段になっており、用途によって使い分けます。また、針金などを曲げたり、切ったりします。

### ⑥ ハブナットレンチ



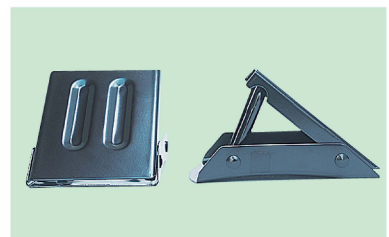
ホイール（車輪）を外したり、取り付けるために使用します。一端は、ホイール・キャップの取り外しができるようになっています。

### ⑦ ジャッキ



タイヤを取り外したり、タイヤ・チェーンを取りつけるとき、タイヤが地面から浮くまで自動車を持ち上げるために使用します。

### ⑧ 輪止め



タイヤ交換やタイヤ・チェーン装着時などに、車が動き出さないようにするために使用します。



# ③ タイヤの交換方法等

## ① タイヤの交換要領

パンクしてタイヤの交換作業に取りかかるときは、平らな堅い路面で、しかも交通障害にならない安全な場所を選びます。また、夜間はなるべく明るい場所で、ほかの自動車から確認できるように駐車灯又は非常点滅表示灯等を点灯して作業をするのが安全です。作業は次の要領で行います。

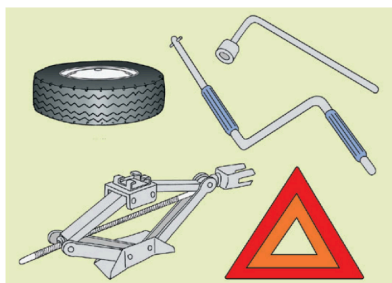
### Research より深く...

スペア・タイヤとして使用されるテンパータイヤは、標準タイヤより空気圧が高く、直径や幅がやや小さいものが備えられています。これはあくまで応急用のものですから、高速で走行したり、長距離走行をしてはいけません。

- ① ハンドブレーキを引き、ギアをローかバック(AT車はP)に入れておきます。また、対角線の車輪の前後に輪止めをします。



- ② トランクからスペア・タイヤ、工具、ジャッキ、停止表示器材などを取り出します。



- ③ ホイール・キャップのある車は、ホイール・キャップをハブナットレンチなどの端で外し、ナットをゆるめます。



- ④ 定められた位置にジャッキを当てて、タイヤが軽く浮くまでジャッキを上げます。



- ⑤ ナットを全部取り外します。



- ⑥ 車輪を交換します。

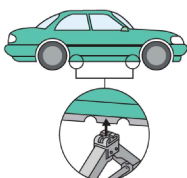


### 注!

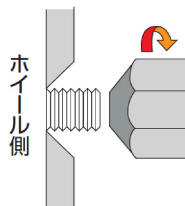
#### 「ジャッキアップポイント」

間違った場所にジャッキをかけると、車体を傷つけたり、ジャッキがはずれたりする危険があるので注意しましょう。

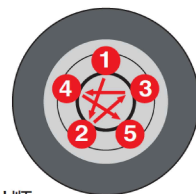
車種によって異なりますので、取扱説明書に従って取り扱いましょう。



- ⑦ ナットは向きに注意して取り付け、仮締めします。



- ⑧ ジャッキを下ろし、タイヤが接地したら、ハブナットレンチでもう一度ナットを順序に従って、均等にしっかりと締めつけます。



ナットの締めつけ順

- ⑨ ホイール・キャップをしっかりと外してジャッキを外します。

- ⑩ 工具類を点検して、交換した車輪などとともにトランクに納めます。

## 2 タイヤチェーン又は防滑タイヤ

積雪又は凍結している道路において自動車を運転するときは、タイヤチェーン又は防滑タイヤ（スノータイヤ、スタッドレスタイヤなど）を用いて、すべり止めの処置を講じなければなりません。

タイヤチェーンは、タイヤにあったものを動力が伝達される車輪（駆動輪）に取り付けます。

スノータイヤは、タイヤのトレッド部（接地面）の溝を深くし、突起をつくったり、また、スタッドレスタイヤは、特殊配合ゴムを使って凍結路面に対する粘着性を強め、雪道や凍結している道路における発進や制動が、円滑に容易にできるようにしたものです。

### セーフティエチケット

#### 突然のトラブル

自分の車を持つようになり、車でいろいろな場所へ行くようになると、さまざまな体験をすることでしよう。

北海道の広大な大地をドライブ中、パンクすることもあるかもしれません。

そんなときは、近くに町がなければ、自分でタイヤ交換をすることになりますので、自分でできるようにしておきましょう。

ナットをしっかりと締め、タイヤを完全に固定しないと走行中にタイヤが外れたりして大きな事故につながります。

タイヤ交換の手順をしっかり覚えておきましょう。

## Research

より深く…

### 「タイヤの種類」

#### ●スタッドレスタイヤ

金属びょう（スタッド）のないタイヤです。

低温でも柔らかさを失わない特殊配合ゴムが使用され、独特の溝の形状と、サイピングといわれる無数の切り込みが設けられ、雪道や凍結路面での駆動性能や制動性能を高めています。



#### ●スノータイヤ

雪道や凍結路面での駆動性能や制動性能を高めるため、普通のタイヤより表面に広くて深い溝をつけ、確実に雪をつかめる（グリップできる）ようにしたタイヤです。



#### ●タイヤチェーン

スタッドレスなどの冬タイヤに比べ、制動効果は高いが、決して万能ではありません。

降雪の状況によってチェーン装着規制が実施される場合もあるので、必ずチェーンを携行してください。

また、材質がゴム、プラスチック、ウレタンなどで、ネット型のももあります。金属チェーンに比べて柔軟性もあり、装着も簡単です。





### 3 タイヤチェーンの装着要領

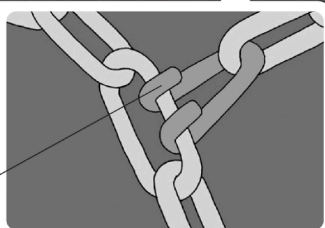
#### 1 車をジャッキで持ち上げてのつけ方

① タイヤチェーンを上からかけます。



※コネクターの折りまげが外側になるように装着しましょう。

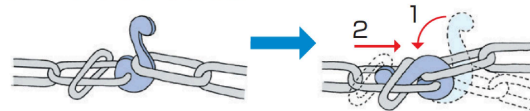
コネクター



② 内側のフックをかけてから外側のフックをかけます。そして、チェーンバンドをつけます。



チェーンフックのつめ方

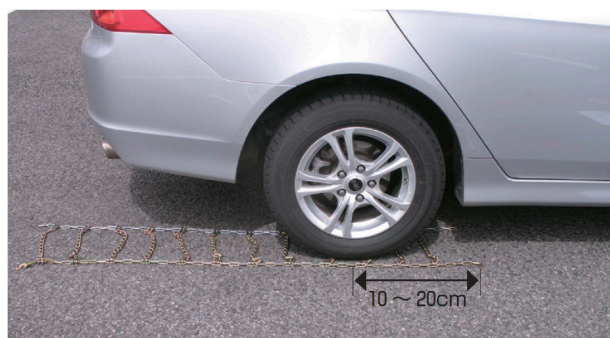


#### 2 ジャッキを使わないつけ方 (その1)

① タイヤに近づけてチェーンをしきます。



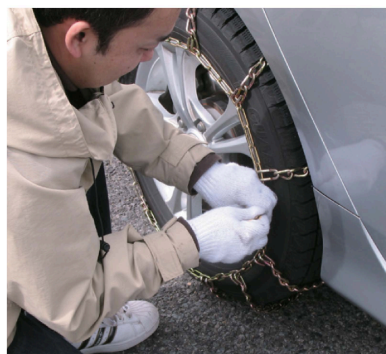
② 車をバックさせ車輪を乗せます。



③ 後ろ側よりタイヤにチェーンをかぶせます。



④ 内側のフックをかけてから外側のフックをかけます。



⑤ チェーンバンドをつけます。



クリップ  
チェーン  
バンド

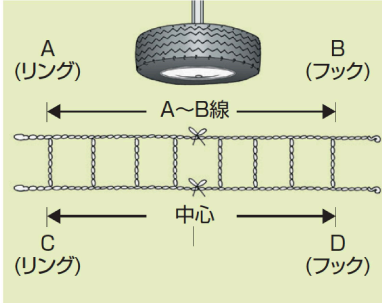


※クリップのツメは、外向きにつけましょう。

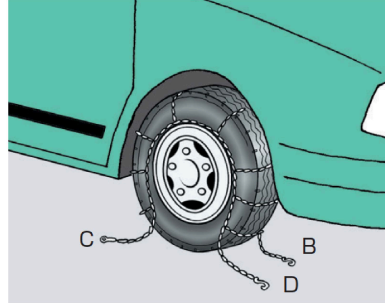


## 3 ジャッキを使わないつけ方 (その2)

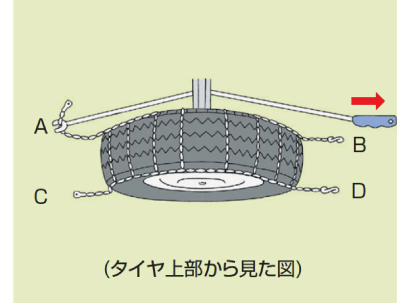
- ① チェーンの中心部を決めます (ペンキ又はひも等で印をつけると便利です。)



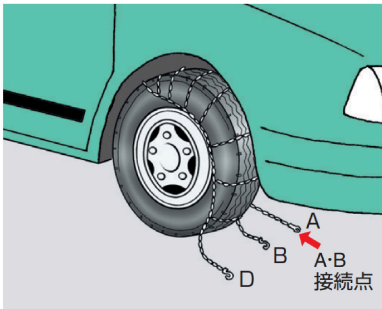
- ② チェーンのA・B側をタイヤの内側にし、中心部がタイヤの頂上にくるようにして上部にかけます (チェーンの裏表に注意します。)



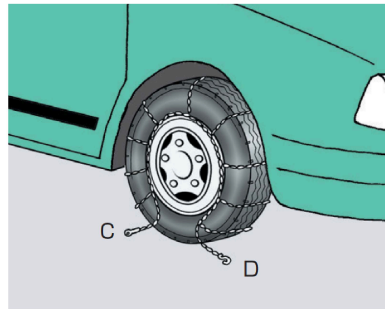
- ③ AリングをBフック側に引き寄せます (針金又は専用器具を使うと便利です。)



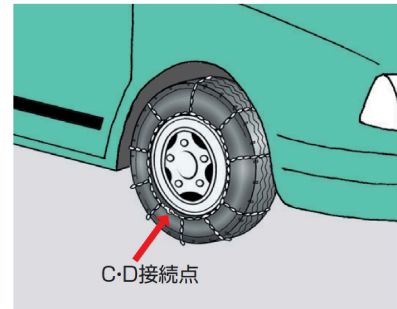
- ④ 引き寄せたAリングとBフックを接続します。



- ⑤ チェーンをタイヤの外側にたぐり寄せ、もとにもどします。



- ⑥ 外側のCリングとDフックを接続し、チェーンバンドをつけます。



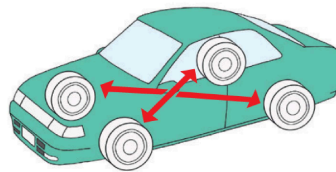
## Research

より深く...

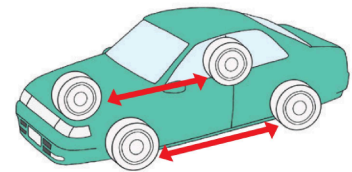
### 「タイヤの定期的位置交換」

前輪と後輪、右側と左側ではそれぞれタイヤの摩耗の度合いが違いますから、おおむね3,000~6,000キロメートル走行ごとに位置を交換して使用すると、タイヤが長持ちします。

バイアスタイヤ



ラジアルタイヤ



# 4 日常点検の方法

## 1 日常点検の必要性

日常点検は、自動車の使用者や自動車を運行しようとする者が、日ごろ自動車を<sup>ひ</sup>使用して<sup>い</sup>く<sup>中</sup>で、<sup>自分</sup>自身の責任において<sup>行</sup>う点検です。自動車の使用者は、自動車の走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に、この点検を行わなければなりません。

なお、タクシー、ハイヤーなどの事業用の自動車を運行しようとする者は、**1日1回**、運行する前にこの点検を行わなければなりません。



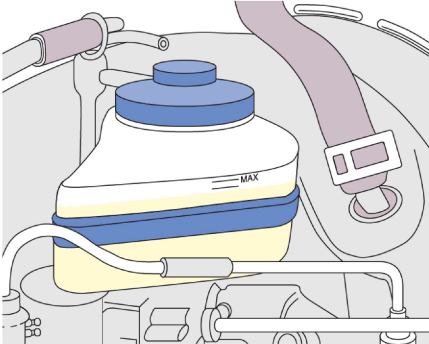
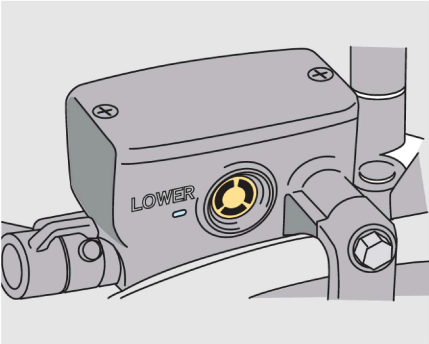
「1日1回、運行する前に点検する車」とは、

- 事業用自動車（タクシー、ハイヤーなど）
  - 自家用大型自動車及び中型自動車
  - 準中型貨物自動車
  - 普通貨物自動車
  - 大型特殊自動車
  - レンタカー
- などをいいます。

## 2 点検箇所と点検方法

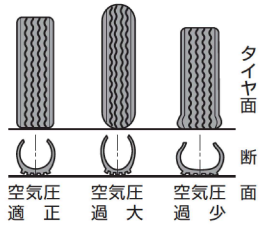
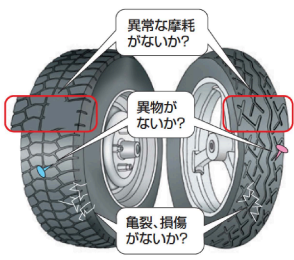
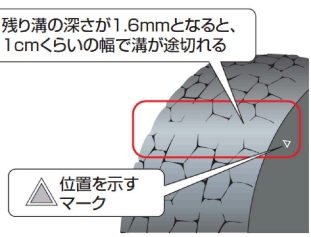
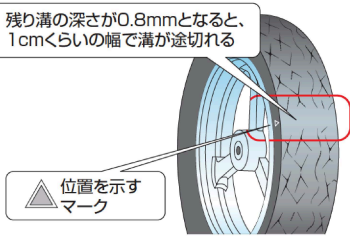
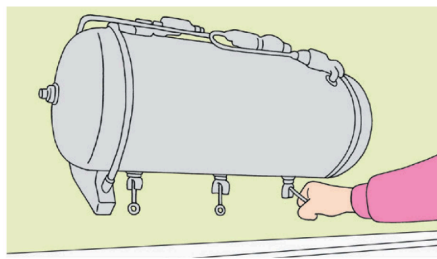
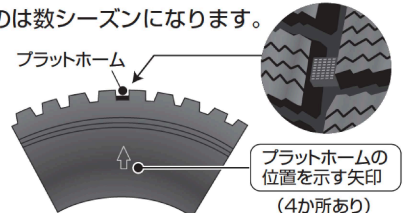
標準的な点検の実施の方法は、次の表のとおりです。

点検箇所	点検項目	点検の実施方法	
		四輪車の場合	二輪車の場合
運行中の異常箇所	当該箇所の異常	前日又は前回の運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。	
運転席での点検	ブレーキペダル	<p>ペダルをいっぱい踏み込んだとき、床板とのすき間（踏み残りしろ）や踏みごたえが適当であるかを点検します。</p> <p>なお、床板とのすき間が少なくなっているときや、踏みごたえが柔らかく感じるときは、ブレーキ液の液もれ、空気の混入によるブレーキのきき不良のおそれがあります。</p>	<p>ブレーキペダルやブレーキレバーの遊びや踏み（引き）ごたえが適当であるかを点検します。</p> <p>なお、ペダルを踏んだときに踏みごたえが柔らかく感じるときは、ブレーキ液の液もれ、空気の混入によるブレーキのきき不良のおそれがあります。</p>
	駐車ブレーキレバー（パーキング・ブレーキレバー）	<p>レバーをいっぱい引いた（踏んだ）とき、引きしろ（踏みしろ）が多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。</p>	

点検箇所	点検項目	点検の実施方法	
		四輪車の場合	二輪車の場合
運転席での点検	原動機（エンジン） ※かかりぐあい、異音 ※低速、加速の状態	エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時及びアイドリング状態で、異音がないかを点検します。  ① エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。 ② エンジンを徐々に加速したとき、アクセルペダルに引っかかりがないか、また、エンスト、ノッキングなどを起こすことなくスムーズに回転するかを、走行するなどして点検します。	
	ウィンドウ・ウォッシュャ ※噴射状態	ウィンドウ・ウォッシュャ液の噴射の向き及び高さが適当かを点検します。	
	ワイパー ※ふき取りの状態	① ワイパーを作動させ、低速及び高速の作動が不良でないかを点検します。 ② きれいにふき取れるかを点検します。	
	◎ 空気圧力計 空気圧力の上がりぐあい	エンジンをかけて、空気圧力の上がりぐあいが極端に遅くないかを点検します。また、空気圧力が空気圧力計の表示に示された範囲内にあるかを点検します。	
	◎ ブレーキバルブ 排気音	ブレーキペダルを踏み込んで放した場合に、ブレーキバルブからの排気音が正常であるかを点検します。	
	エンジン ツィンタンク ウィンドウ・ウォッシュャタンク ※液量	ウィンドウ・ウォッシュャ液の量が適当かを点検します。	
エンジン ルームの点検 ブレーキのリザーバ・タンク ※液量	リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。   		



点検箇所		点検項目		点検の実施方法	
		四輪車の場合		二輪車の場合	
エンジンルームの点検	バッテリー	※液量	バッテリー各槽の液量が規定の範囲内にあるかを車両を揺らすなどして点検します。		
	ラジエーターなどの冷却装置	※水量	<p>リザーバ・タンク内の冷却水の量が規定の範囲内にあるかを点検します。          なお、冷却水の量が著しく減少しているときは、ラジエーター、ラジエーターホースなどからの水もれのおそれがあります。</p>		
	潤滑装置	※エンジンオイルの量	<p>オイルの量がオイルレベル・ゲージ（油量計）で示された範囲内にあるかを点検します。</p>	<p>オイルの量がオイルレベル・ゲージ（油量計）で示された範囲内にあるかを点検します。          なお、2サイクルエンジンの場合は、タンク内のオイルの量が十分であるかを点検します。</p>	
△ファンベルト	※張りぐあい、損傷	<p>① ベルトの中央部を手で押し、ベルトが少したわむ程度であるかを点検します。          ② ベルトに損傷がないかを点検します。</p>			
車の周りからの点検	灯火装置、方向指示器	点灯・点滅ぐあい、汚れ、損傷	<p>① エンジンスイッチを入れ、前照灯、制動灯などの灯火装置の点灯ぐあいや方向指示器の点滅ぐあいが不良でないかを点検します。          ② レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。</p>		

点検箇所	点検項目	点検の実施方法	
		四輪車の場合	二輪車の場合
車の周りからの点検	空気圧	<p>タイヤの接地部のたわみの状態により、空気圧が不足していないかを点検します。</p>  <p>タイヤの適正な空気圧は、車によって異なります。取扱説明書などに表示があるので参考にして、エアゲージなどを使用し、調整しましょう。</p>	
	□取付けの状態	<p>① ディスク・ホイールの取付状態について目視により次の点検を行います。</p> <p>ア ホイール・ナットの脱落、ホイール・ボルトの折損などの異常はないか。</p> <p>イ ホイール・ボルト付近にさび汁が出たこん跡はないか。</p> <p>ウ ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さに不ぞろいはないか。</p> <p>② ディスク・ホイールの取付状態について、ホイール・ナットの緩みなどがいないかを点検ハンマなどを使用して点検します。</p>	
	亀裂、損傷	<p>タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。また、タイヤの全周にわたり、くぎ、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。</p>	
	異常な摩耗	<p>タイヤの接地面に、極端にすり減っている箇所がないかを点検します。</p>	
	※溝の深さ	<p>溝の深さが十分であるかをウェア・インジケータ（スリップ・サイン）などにより点検します。</p>	 
◎エア・タンク	<p>タンク内のたまり水</p> <p>ドレン・コックを開いて、タンクに水がたまっていないかを点検します。</p> 	<p><b>注!</b></p> <p>積雪や凍結道路を走行するスタッドレスタイヤは、溝の深さが新品時の50% (4mm) 以上なければ、スリップする可能性が高く危険です。</p> <p>そのため、溝の深さを確認するプラットホームと呼ばれる目印があり、プラットホームが露出しブロックがつかったら使用しないようにしましょう。スタッドレスタイヤは、ゴムが柔らかいので傷みも早く、溝が残っていても本来の性能が発揮できるのは数シーズンになります。</p> 	

## 備考

- ※の点検項目は、事業用の自動車や自家用の大型自動車及び中型自動車、準中型貨物自動車、普通貨物自動車、大型特殊自動車、レンタカーなどについても、自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に行えばよいものです。
- ◎の点検箇所は、エアブレーキが装着されている場合に点検しなければなりません。
- △の点検箇所は、自家用の普通乗用自動車などにあつては、定期点検等の際に点検してください。
- の点検項目は、車両総重量8トン以上又は乗車定員30人以上の自動車の場合に点検してください。



## 「点検整備をおこたると発生する故障例」

定期的な点検整備をおこたると、次のような故障を引き起こすおそれがあり、大変危険です。

**バッテリー液**  
液が少ないまま使用すると、発熱・爆発のおそれがあります。

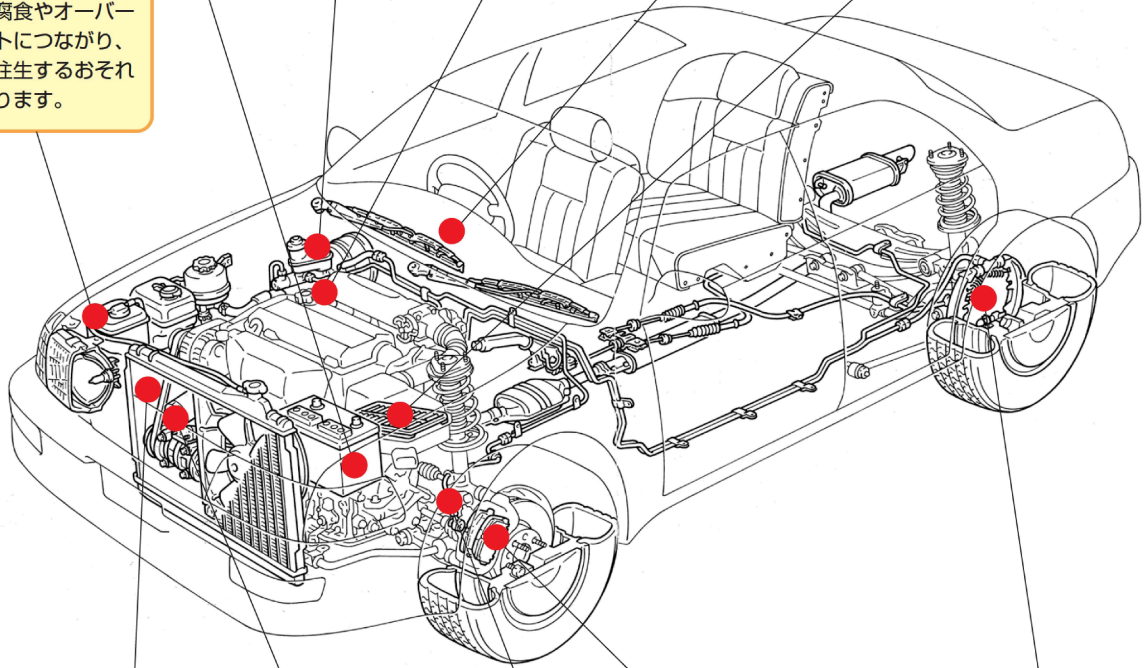
**ブレーキ液**  
長期間使用していると、水分を含んでブレーキのききが悪くなります。

**エンジンオイル**  
劣化したまま使用していると、エンジンの不調や焼き付きにつながり、立ち往生するおそれがあります。

**ワイパーブレード**  
劣化したまま使用していると、ふき取りが悪くなり安全な視界を妨げ、重大な交通事故につながるおそれがあります。

**エアクリナーエレメント**  
ゴミやほこりで目詰まりすると、エンジンに必要な空気が不足し、出力を低下させます。

**冷却水**  
劣化したまま使用していると、ラジエータの腐食やオーバーヒートにつながり、立ち往生するおそれがあります。



**ファンベルト**  
ゆるんだ状態で使用していると、バッテリー上がりやオーバーヒートにつながり、立ち往生するおそれがあります。

**オイルフィルター**  
汚れたまま使用していると、オイルの流れに支障をきたし、出力低下につながります。

**ブレーキホース**  
劣化したまま使用していると、突然破裂し、ブレーキがきかなくなり、重大な交通事故につながるおそれがあります。

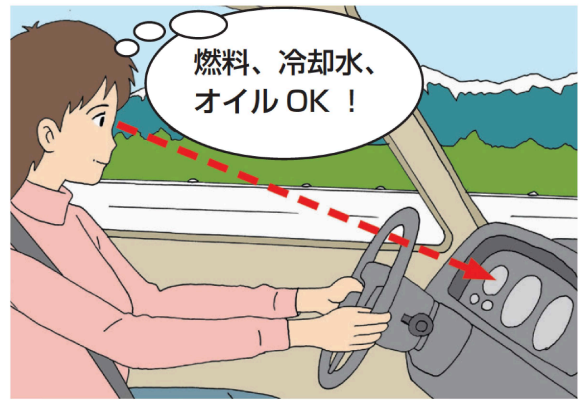
**ブレーキパッド ブレーキライニング**  
走行距離や使用回数が増すことに摩耗して、限度を超えるとブレーキのききが悪くなり、重大な交通事故につながるおそれがあります。



### 3 高速走行前の点検

高速走行をすると、低速走行中では予想できないような故障が発生します。

また、高速走行中は小さな故障も大事故に結びつくので、念入りの点検が必要です。特に高速道路では、燃料、冷却水、エンジンオイルの不足により停止することのないよう注意するとともに、停止表示器材の準備も必要です。



## セーフティエチケット

### 冬の点検

冬期は、冬特有のトラブルが発生しやすくなります。特に次の点に、気をつけましょう。

- ・バッテリーの容量低下
- ・ブレーキパッド等の凍結による制動効果の低下
- ・ワイパーの凍結

点検や整備を常に心掛け、トラブルを未然に防ぐのも運転者の義務です。

## ためしてみよう!

## ○×問題

正しいと判断したときは○の欄、まちがっている  
と判断したときは×の欄に✓印をつけてください。

- 問1 バッテリーの保守管理は、各槽の電解液が規定の範囲内にあるか確認を行う。
- 問2 前面ガラスが乾いているときに、ワイパーを作動させると、前面ガラスに傷をつけることがある。
- 問3 自家用の普通乗用車などの日常点検は、自動車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期に行う。
- 問4 日常点検は、日ごろ自動車を使用していく中で、自分自身の責任において行う点検である。
- 問5 タイヤの点検ポイントは、①空気圧、②亀裂、損傷、③異常な摩耗、④溝の深さなどである。
- 問6 高速道路を通行するときは、タイヤが熱をもち空気が膨張するので、タイヤの空気圧は、やや低くしておく。
- 問7 走行中は、車の異音、異臭、振動などにもよく注意していなければならない。
- 問8 大型自動二輪車や普通自動二輪車の日常点検は、1日1回運行する前に必ず行わなければならない。

○	×
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

▶解答と解説は、270ページにあります◀